



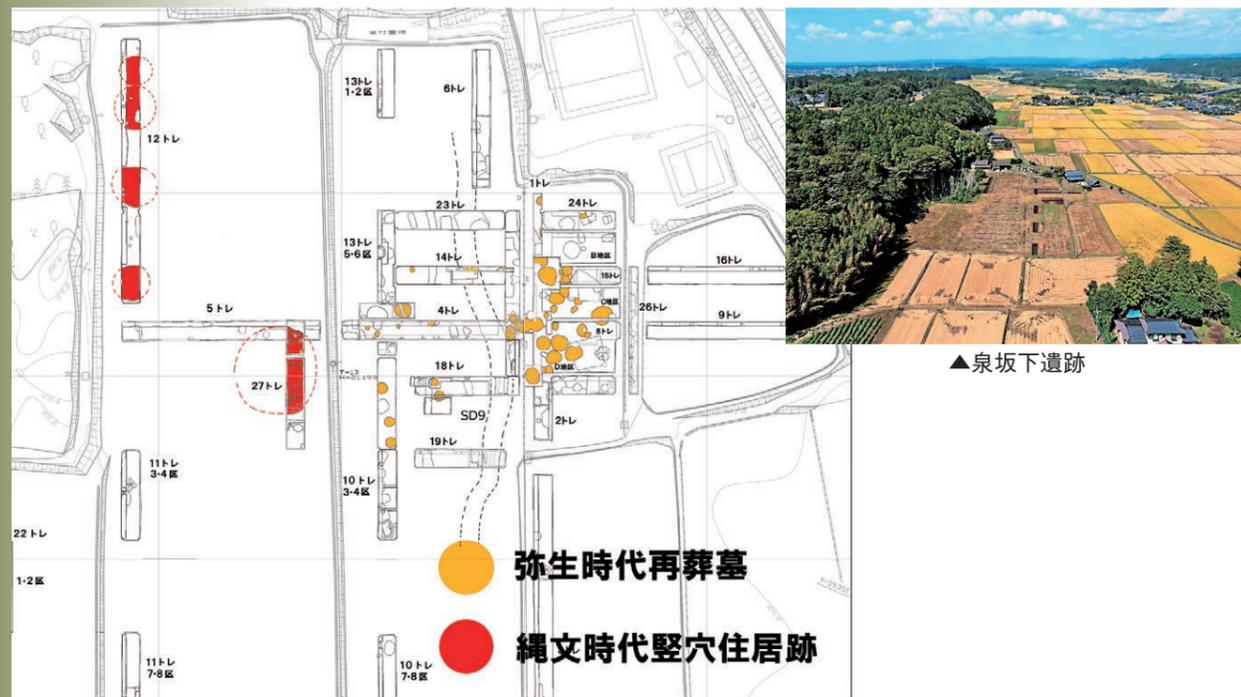
# いずみもゆく

## 泉坂下遺跡と泉坂下遺跡出土遺物が 国指定史跡と国重要文化財のW指定へ！

ダブル

平成29年6月16日（金）に開催された国の文化審議会第三専門調査会で、泉坂下遺跡の国史跡指定が文部科学大臣あて答申されました。今後、正式な手続きを経て指定されます。

本遺跡は、人面付壺型土器をはじめとする出土遺物の国重要文化財指定の答申が、今年3月10日に出たばかり。ほぼ時を同じくして、遺跡も国指定史跡になる見込みとなりました。出土したものが国重要文化財、発掘された土地が国指定史跡となるダブル指定は数少ないうえ、同年度内に指定されることは極めてまれです。



▲泉坂下遺跡

指定にあたり評価された点は、

- 人面付壺型土器をはじめとする多くの優品が出土する再葬墓遺跡であること
- 発掘の記録や考察がしっかりなされた学術的調査であったこと
- 現在も現地に多くの遺構が保存されていること

などでした。再葬墓遺跡は、全国で約140遺跡ほど知られていますが、近年の適正な発掘調査事例は限られていて、研究者を悩ませてきました。泉坂下遺跡は、再葬墓はもちろん、謎の多い東日本の弥生時代のはじまりを解明することができる遺跡であると期待されています。

集落遺跡や寺院、古墳などの遺跡で国指定史跡になっているものは数多くありますが、再葬墓遺跡として指定されるのは泉坂下遺跡が初めてであり、日本で唯一の国指定史跡の再葬墓遺跡となります。そして、このあまり知られていない「再葬墓」というものを日本中に広める役割も泉坂下遺跡が担っていくことになります。

### 再葬墓とは・・・

弥生時代中期の墓制の一つです。亡くなった人を一度埋葬し、その後、一定期間をおいて骨を掘り出して壺に入れ、複数人分をまとめて再度埋葬したお墓のことです。現代の私たちにとっては、奇妙な風習にも感じられますが、この時代の東日本では一般的な墓制でした。

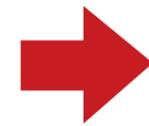
はるか昔から、縄文時代の屈葬や古墳時代の前方後円墳、土葬・風葬・火葬など、時代や地域・宗派によって様々な葬法・墓制が営まれてきました。そのなかで、遺体を骨化して壺に納め、複数の壺を一つにまとめて同じお墓に埋めている再葬墓は、火葬した後、骨壺を一族のお墓に入れる、現代のお葬式ととても共通点が多いのです。不思議なことですね。

### ～泉坂下遺跡のこれまで～

昭和55年頃に地権者の菊池榮一さん（故人）が壺形土器を発見したことにより、再葬墓の存在が判明。



▲菊池さん発見の土器



◀平成18年に鈴木素行氏が学術調査を実施し、再葬墓を確認。



◀平成18年1月15日、人面付壺型土器が約2,300年ぶりに顔を出した。



◀平成24～27年度にかけて市の教育委員会が確認調査を行い、30基の再葬墓に150個以上の土器を発見。



**W 指定へ！！**  
 平成29年3月10日  
**「国重要文化財」答申！！**  
 平成29年6月16日  
**「国指定史跡」答申！！**

問い合わせ：文化スポーツ課  
文化・スポーツG 内線(343)

### 指定記念企画展開催中

今回の指定を記念して、人面付壺型土器（愛称：いずみ）の実物をはじめとする、出土品の一部を展示しています。ぜひご来館ください。

開催期間：平成29年7月14日（金）まで ※月曜日・祝日は休館

開館時間：9：00～16：30

場所：歴史民俗資料館大宮館（中富町1087-14）

入館料：無料

問い合わせ：歴史民俗資料館大宮館 電話 52-1450



▲人面付壺型土器